

高大接続における大学の役割と機能

— 米国の Advanced Placement プログラムに焦点を当てて —

郭 暁博

1. はじめに

近年日本において、少子化問題がもたらした大学の定員割れ、大学全入時代の到来がもたらした学生の学力や学習意欲の低下等の問題がある。また、グローバル化、国際化、地域社会の変化などに対応する多様な人材の育成は、高等教育段階において重要な課題とされている。文部科学省は「高大接続改革の実施方針等の策定について」（平成 29 年）の中で、高等学校教育段階、大学入試段階、大学教育段階の 3 つに分けて、改革の方向性を示している。具体的に、学習指導要領の改訂や「大学入学共通テスト」の導入など様々な改革を実施している。また、平成 30 年 6 月 5 日に、内閣府が提起している Society 5.0 の実現に向け、文部科学省では「Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会」が開催された。懇談会では、Society 5.0 に向けたリーディング・プロジェクトの 1 つとして、「文理分断からの脱却：文理両方を学ぶ高大接続改革」が提起されている。その中では、Advanced Placement（以下 AP）も含む高度かつ多様な内容を、個人の興味・特性等に応じて履修可能とする学習プログラム/コースを WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアムとして、高校生 6 万人あたり 1 か所を目安に、各都道府県で国公立高校・高専等を拠点校として整備する計画や、海外提携校等への短期・長期留学を必修化し、海外からハイレベル人材を受け入れ、留学生と一緒に英語で行う授業・探究活動¹等が、具体的な施策として取り上げられている。

日本国内では、上記で提起された AP は、高校生が大学の授業を受講し単位を先取りできる制度であり、高大接続の強化策の 1 つとして注目が集まっている。その代表例は、文部科学省の大学教育再生加速プログラムの一環として、杏林大学が平成 29 年 4 月より提供した独自の AP プログラム（「日英中トライリンガル育成のための高大接続」）がある²。杏林大学は大学間単位互換協定を桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学と結んでいる³。

上記の事例は、個別の大学と個別の高校との連携であり、高大接続プログラムを実施する先進性を有すると評価できよう。また意欲のある特定の生徒が進学するには有利な条件にもなる。だが、これらは小規模の連携にとどまり、今後 Society 5.0 で提起されている目標を実現するために、より大規模な連携や共通性のある高大接続プログラムを創出する環境を整える必要があると考えられる。

一方、高大接続において成功している海外の先進事例について、米国における高大接続プログラムに関連する先行研究としては、ワシントン州の事例を取り上げた河合の研究⁴、ミネソタ州の事例を取り上げた腰越の研究⁵、ハワイ州の事例を取り上げた小川・小野寺の研究⁶などが

ある。これらの研究は職業技術教育コースのテク・プレップ (Tech Prep) や資格のある高校 3、4 年生が参加するランニング・スタート (Running Start)、大学レベルの授業を履修する AP プログラム、国際的に標準化されている国際バカロレア (International Baccalaureate、以下 IB) などの紹介について、有益な情報を提供している。そのうち、AP に関しては、高校現場における実施現状、教員研修の在り方・効果などについての検討がされている⁷⁾。加えて、AP を州全体の教育政策として促進し、それが顕著な教育効果を遂げたアーカンソー州の事例もある⁸⁾。だが、これらの事例は高校段階における AP の活用方法やもたらした効果の検証であり、AP が高等教育機関で果たす役割や機能についての検討は十分にされていない。高大接続プログラムを履修する経験や取得した成績が実際の大学入学時と入学後にどのように活用されているか、また大学はどのような役割を果たしているのかについての検討は管見の限り見当たらない。

本稿はユタ州の事例を取り上げ、ユタ州における AP の位置づけや、大学が高大接続において果たしている役割と機能について検討する。具体的に、まず全米の AP に関する政策動向と、ユタ州における AP の制度設計について説明する。次にユタ州の教育基本情報、大学の特徴及び高大接続プログラムの種類について紹介する。さらに AP のユタ州における実施状況を明らかにする。最後に AP のユタ大学での活用方法・効果について、文献調査と現地調査をもとに検討する。最終的にユタ州における AP の活用事例を通して、大学が高大接続において果たす役割と機能について検証する。

2. AP における政策動向

本章は、AP の普及・拡大を促進するための政策提言について検討する。高大接続プログラムとしての AP の効果が全米で次第に重要視されてきている。これは、「Elementary and Secondary Education Act (初等中等教育法)」(1965) のタイトル I (学力達成度が不利益にある学生を対象とする項目) の中で、低所得家庭の生徒の AP への参加・受験に対する支援を設定していることから窺える。具体的には、連邦教育省 (U.S Department of Education) が助成金 (Advanced Placement Incentive Program Grants) を設置することを通して、低所得家庭の生徒の AP への参加を促進している。その助成内容は、(1) 教員のための専門的な開発、(2) カリキュラム開発、(3) 書籍および消耗品の購入、(4) AP 履修者の増加や低所得学生の試験への参加の 4 つからなっている⁹⁾。

一方、州における政策動向として、米国の全州教育協議会 (Education Commission of The States、以下、ECS)¹⁰⁾ が、2016 年に AP を促進するための指針として「A Comprehensive State AP Policy」を公布したことがある。同指針は、生徒の高等教育機関へのアクセスの公平な機会を保障するためには、州政府は AP に関する総合的な政策立案や支援を検討・実施すべきと提起している¹¹⁾。具体的な支援政策は、①アクセス、②サポート、③質保証、④単位認定の 4 段階を包括するものとされ、それぞれの段階において、適切な政策立案・支援を行うことが ECS より推奨されている。

①アクセスについて、各州におけるすべての公立高校は少なくとも 1 つの AP 授業を提供することが期待されている。客観的な指標に基づき、生徒に適切な AP 授業を推薦することが求められている (客観的な指標とは、アカデミック・リテラシーやキャリア・リテラシーなどの

基準に合わせた評価のことを指す)。その中で、州政府は、過疎地や小規模の学校に在学する生徒が、AP 授業をより履修しやすくするために、オンライン授業の提供や幅広いサポートを行わなければならない。加えて、教育機会の均等を保障するためには、低所得者の子どもたちが AP 試験を受ける際に、最低限の受験費用で受験することが保障されるべきとされている。各州の政府は生徒の AP 受験を促進するために、州の予算より補助金を提供することが期待されている。

②サポートについて、各州が Pre-AP 授業¹²を実施することや AP 教員研修への参加をサポートすることは重要であると指摘している。また、AP 授業の提供と成功¹³を支えるための財政的なインセンティブを付与することも強調されている。さらに、AP 教員研修への参加や継続的な職能開発を支援することが重要であり、それを促進するため、州の政策支援が必要とされている。

③質保証について、AP 授業の参加状況と効果に関して、学区や学校のアカウンタビリティを十分に果たさなければならない。加えて、生徒が単位認定を受けるために AP 試験に合格することも質保証の一環として取り上げている。

④単位認定について、各州における AP 試験の点数に対する単位認定の基準を設置することが求められている。

ESC は、これらの具体的な政策提言を通して、各州における AP の実施・普及を促進している。2017 年度は、AP 授業の履修者数は 2,741,426 人に上り、AP 試験の参加者数は 4,957,931 人に増加している¹⁴。そのうち、3 以上¹⁵を取得する学生の割合は 58%であり、全米の公立高校の在学者数 21.9%を占めている¹⁶。

次章では、上記の政策提言が、各州においては実際にどのような形で反映されているのかを、ユタ州の事例に注目し、検討する。

3. ユタ州における高大接続に関する法律

ESC が提言した AP の実施・普及政策のもと、2016 年 7 月 11 日にユタ州における早期履修学生に向けた強化プログラムに関する規則（R277-707「Enhancement for Accelerated Students Program」）が改訂された。同規則はユタ憲法の「第十条 教育」の「第 3 項 州教育委員会」、「タイトル 53 州の公教育システム」の法典に基づき、作成されたものである。同規則は 1) 権限と目的、2) 定義、3) 補助金の適格性、分配および使用、4) パフォーマンス基準とレポートの 4 つの部分がある（表 1）。

早期履修学生に向けた強化プログラムに関する規則をみると、①アクセスについて、AP 試験への参加費用に関する補助金がユタ州で計上されている。3 以上を取得した生徒に対し、試験参加費を補助する仕組みが設けられている。州における AP 試験への参加を促進するための財政支援が確保されている。2015 年に AP に割り当てた決算額は 1,705,386 ドルである¹⁷。②サポートについて、ユタ州における Pre-AP 授業の実施や AP 教員研修への参加に対する支援策は、早期履修学生に向けた強化プログラムに関する規則には記載されていない。AP を対象としたサポートが十分に行われていないと言える。③質保証について、ユタ州は AP の実施効果に対する学校のアカウンタビリティを求めている。AP の履修状況や試験成績などを、毎年ユタ州教

育委員会に報告することが求められている。④単位認定について、AP 試験でよい成績を取得した生徒は単位が付与されることが明確に決められている。早期履修学生に向けた強化プログラムに関する規則の全体をみると、ECS が提起したもののうち②サポートを除く、①アクセス、③質保証、④単位認定の3つの支援政策について、それぞれの段階において適切な政策立案・支援が行われているといえる。次章はユタ州の AP 実施状況について説明する。

表 1. 早期履修学生に向けた強化プログラムの規則

R277-707-1 権限と目的	(1) この規則は次の者によって認可される。 (a) ユタ州憲法第十条第3項により、ユタ州教育委員会が公教育に対する全般的な統制と監督を行う。 (b) セクション 53A-17a-165 に基づき、ユタ州教育委員会が早期履修学生に向けた強化プログラムの予算に充された補助金の支出に関する基準を決めることができる。そして (c) セクション 53A-1-401 に基づき、ユタ州教育委員会がユタ憲法および州法の下でユタ州教育委員会の義務および責任を果たすための基準を作成することが可能である。 (2) (a) 本規則の目的は、タイトル 53A-17a-165 に基づき、充てられた予算を LEAs¹⁸に適切に分配する基準を定めることである。 (b) この予算の目的は、優れた生徒の学力向上を図ることである。
R277-707-2 定義	(1) 「早期履修学生」とは、優秀な学業成績または潜在的な能力を有する者で、挑戦的な教育モデルを必要とする子どもおよび青少年を意味する。 (2) 「AP」は、カレッジボードによって開発された高大接続プログラムを意味する。 <u>(a) 各科目は、大学教員と AP 教員で構成された委員会によって開発され、大学の授業で求められる幅広い情報、スキル、課題などをカバーする。そして</u> <u>(b) AP 試験でよい成績を取得する生徒は大学に進学する際に、(i) 単位が付与されること、または (ii) 高度な科目からの履修が認められることがある。</u> 以下略。
R277-707-3 補助金の適格性、分配および使用	(1) すべての LEA は、UCA¹⁹を使用して早期履修学生向けプログラムの補助金を申請する資格を有する。 (2) (a) LEA は、複数の評価手段に基づき、生徒の学業成績の向上効果を長期的に測定しなければならない。 (b) これらの評価手段は、英語の語彙や理解能力のみに依存するものではなく、文化的に多様性を持つ生徒や障害のある生徒の能力を考慮しなければならない。 (3) 補助金の割り当てには、 <u>(a) AP : (i) AP の補助金は、セクション 53A-17a-165 (3) 項に基づき、早期履修学生に向けた強化プログラムの予算額から割当額を控除したものに 0.38 を掛けたものに等しい。</u> <u>(ii) (A) AP に指定された補助金の総額は、生徒が AP 試験で3以上の成績を取得した科目数(合格数)で計算するものとする。(B) 各 LEA が、各試験の合格数を基準に補助</u>

	<u>金が配布される。</u> 以下略。
R277-707-4 パフォーマンス基準とレポート	(1) 第 R277-707-3 条に規定されている補助金分配を受けている LEA は、セクション 53A-17a-165 に従い、年次評価報告書を監督者に提出することが求められる。報告書には、学業成績が向上した生徒に関連する以下の指標が含まれていなければならない。 (a) サブグループによって区分された生徒の数。 (b) 該当する生徒の卒業率。 <u>(c) AP 試験で 3 以上を取得した生徒の数、履修した AP クラスの数。</u> (d) 該当する生徒が履修した IB クラスの数、4 以上を取得するした生徒の数。 (e) 該当する生徒が履修した DE クラスの数、および獲得した単位数。 (f) ACT または SAT のデータ（参加する生徒数を含む）。 (g) 言語習得の熟達度;そして (h) 数学の熟達度。 (2) 教育長は、セクション 53A-17a-165 (6) 項に従い、プログラムの有効性に関する年次報告書をユタ州議会の公立教育歳出委員会に提出しなければならない。

*Rule R277-707. Enhancement for Accelerated Students Program*²⁰より、筆者抜粋。

4. ユタ州における AP の基本情報

4-1. ユタ州の教育概要と課題

前章では、ユタ州における高大接続プログラムを促進するための制度設計について説明した。本章はユタ州における AP の実施状況および効果について検討する。それに先立ち、まず、ユタ州の教育に関する基本情報と課題を説明する。

ユタ州は高大接続プログラムとして AP 以外の複数のプログラムを提供しており、複合的な効果により州全体の教育成果をあげている例として注目に値する。ユタ州における高大接続プログラムは、AP、Concurrent Enrollment(以下、CE)、Early College High School(以下、ECHS)、IB、奨学金 (Scholarship) の 5 つがある²¹。CE はユタ州における Dual Enrollment²²の通称であり、ユタ州の独自の高大接続プログラムである。特徴としては、個別の高校あるいは学区が個別の大学と連携し、独自の高大接続プログラムを実施することである。ECHS は CE の一種として、2006 年に州教育委員会とユタ高等教育システム²³が連携し、州内の大学に進学する生徒を育成する目的として設立したユタ州の独自の高大接続プログラムである²⁴。

ユタ州の教育基本データを見ると、高等学校の卒業率は 84.8%で、全米で 26 位に位置している。高等教育機関の卒業率について、2 年制大学卒業率（3 年以内）と 4 年制大学卒業率（6 年以内）がそれぞれ 32.6%（全米で 2 位）と 46.1%（全米で 4 位）である。

2012 年にユタ州の教育委員会と商工会が連携し、ユタ州「Prosperity 2020」を定めた。その目標は、①NAEP（National Assessment of Education Progress）のリーディング評価（NAEP Reading Assessments）や算数・数学評価（NAEP Math Assessments）²⁵の成績と高等学校の卒業率を、全米の 10 位まで向上すること；②高等教育の進学率を、67%までに向上することである。ユタ州は 2020 年までに高等教育への進学率や卒業率の向上を、州全体の教育課題として力を入れて

いることがわかる（表2）²⁶。

表2. ユタ州の教育基本データ（2017年）

合計	チャータースクール	公立学校
	122 校	938 校
小学校	58 校	604 校
中学校	22 校	166 校
高等学校	31 校	154 校
K12 一貫校	11 校	14 校
州立高等教育機関数（2年制大学を含む）	8 校	
高等学校の卒業率	84.8%（全米で26位）	
高等教育の卒業率	43%	
うち 2年制大学卒業率（3年以内）	32.6%（全米で2位）	
4年制大学卒業率（6年以内）	46.1%（全米で4位）	
教育成果	42.6%（全米で13位）	
卒業時の負債率	43%（全米で1位）	

Utah State Board of Education, *Data and Statistics*²⁷より、筆者作成。

4-2. ユタ州におけるAPの実施状況

前節では、ユタ州における教育の基本状況及び高大接続プログラムの種類について説明した。本節はユタ州におけるAPの実施状況について検討する。

ユタ州の11、12年生の在学者数は86,250人であり、そのうち、AP授業の参加者数は27,862人で、AP受験者数は43,318人である（2017年）²⁸。割合からみると、ユタ州における11、12年生の32%がAP授業を履修している。また、ユタ州のAP受験者数の67%が3以上を取得し、全米平均値の58%を超えており、全米で第9位に位置している²⁹。AP授業を提供している学校について、公立は151校、公立以外の学校は46校の合計197校ある³⁰。

2007年から2017年のユタ州におけるAP受験者数を見ると、24,183人から43,318人までに増加する傾向が見える。AP試験の平均点数は3.07である。受験者数が最も多い科目の上位3位について、1位は英語（言語と構成）の5,194人で、平均点数が3.06である。2位は人文地理学の4,495人で、平均点数が2.71である。3位はアメリカ史の4,470人で、平均点数が2.82である（表3）。

5. 高大接続におけるユタ大学の果たす役割と機能

前章はユタ州におけるAPの実施状況について説明した。本章はユタ州の高等教育機関において、APがどのように活用されているのかについて検討する。具体的に、ユタ州の高等教育を代表するユタ大学を事例として、文献調査と現地調査をもとに検討する。

郭：高大接続における大学の役割と機能

表 3. ユタ州における AP 試験成績 (2017 年度)

番号	科目	試験参加者数	平均点数	番号	科目	試験参加者数	平均点数	番号	科目	試験参加者数	平均点数
①	芸術歴史	546	3.44	⑮	フランス語・文化	102	2.93	㉔	リサーチ	4	*
②	生物	1,742	3.03	⑯	ドイツ語・文化	28	2.71	㉕	セミナー	48	3.10
③	微積分学 AB	3,051	3.25	⑰	比較政治・政策学	425	3.40	㉖	スペイン語・文化	1,004	3.39
④	微積分学 BC	1,589	3.66	⑰	アメリカ政治・政策学	2,212	2.95	㉗	スペイン語	18	3.44
⑤	化学	939	2.79	⑱	人文地理学	4,495	2.71	㉘	統計	2,367	3.15
⑥	中国語・文化	54	4.06	㉑	イタリア語・文化	1	*	㉙	スタジオアート： 2-D デザイン	482	3.73
⑦	コンピューター	233	2.85	㉒	日本語・文化	11	2.45	㉚	スタジオアート： 3-D デザイン	102	3.75
⑧	コンピューター-SCI 原理	172	3.41	㉓	ラテン語	20	3.15	㉛	スタジオアート： 絵画	363	3.85
⑨	マクロ経済学	133	3.79	㉔	音楽原理	357	3.51	㉜	アメリカ史	4,470	2.82
⑩	ミクロ経済学	139	3.78	㉕	物理学 1	1,118	2.59	㉝	世界史	2,651	2.85
⑪	英語 (言語と構成)	5,194	3.06	㉖	物理学 2	105	3.01		合計	43,318	3.07
⑫	英語 (文学と作文)	3,691	3.15	㉗	物理学 C (電気と磁気)	72	2.86		試験の参加生徒数	27,862	
⑬	環境科学	587	2.85	㉘	物理学 C (力学)	420	3.35				
⑭	ヨーロッパ史	1,395	2.85	㉙	心理学	2,978	3.49				

AP Program Participation and Performance Data 2017³¹ より、筆者作成。

筆者は 2018 年 3 月 7 日に米国のソルトレイクシティにあるユタ大学を訪問し、ユタ大学における AP の活用方法とユタ大学が高大接続における役割と機能を中心に、インタビューを行

った。調査対象はユタ大学アドミッションオフィスの T 氏 (Senior Associate Director) とほか 1 名である。調査方法は半構造化面接を用いた。

ユタ大学は 1850 年に設立された州立高等教育機関であり、ユタ州におけるトップレベルの研究型大学である。2018 年のベストカレッジのランキングにおいて、全米大学の 110 位に位置している。州内学生の年間授業料は 9,166 ドル (2017-18 年度) で、州外学生の年間授業料は 26,408 ドル (2017-18 年度) である³²。学生と教員の比率は 16 : 1 で、学生 20 名未満の小規模授業が授業全体の 40% を占める大学である。男女比は 54 : 46 である。4 年間で卒業する学生の割合は 29% である³³。

ユタ大学の新入生入学審査は、①アカデミック準備とパフォーマンス (主な指標) と②個人の成績と特徴 (第二次指標) の 2 つのプロセスがある (表 4)。

表 4. ユタ大学における新入生選抜審査プロセス

アカデミック準備とパフォーマンス (主な指標)	個人の成績と特徴 (第二次指標)
・ 高校における高大接続授業の履修経験 (例: Honors³⁴、AP、IB、Dual / Concurrent Enrollment など) ・ 学年ごとの経年変化と傾向 ・ 非加重 GPA³⁵ ・ ACT および/または SAT テストのスコア ・ 学力、知識に対する追求、積極的に努力する等の面において優れている ・ 高校におけるすべての必修科目の完成度	・ 学業成績と受賞歴 ・ クラブや学生活動、陸上競技、その他の課外活動、または仕事への関与 ・ 家族の責任 ・ 特別な事情 ・ 地域社会の関与、シチズンシップ、リーダーシップへの重要なコミットメント ・ 文化的・知的、多様な学習コミュニティに貢献・役に立つ能力

Utah University, OFFICE OF ADMISSIONS³⁶より、筆者作成。

2017 年の新入生入学希望者数は 22,310 人で、入学者数は 14,818 人である。そのうちの 5,200 人が 9,193 の AP 試験 (1 人につき約 1.8 科目を受験) で 3 以上を取得し、ユタ大学の単位認定を受けている。ユタ大学の AP 試験に対する単位認定数は全米の高等教育機関の中では 45 位に位置している³⁷。具体的な単位認定基準について、表 5 で示す。ユタ大学は独自の CE やほかの高大接続プログラムを提供していないが、ユタ州における他大学の CE や AP、IB などの単位認定を行っている。

ユタ大学における AP の役割と機能を中心に聞き取りを行った結果、以下の役割と機能が見いだされた。

1 つ目は、ポテンシャルや意欲のある学生を受け入れる手段として活用されている。ユタ大学は AP 授業との関わりや AP 教員研修の実施などを直接行っているわけではないが、アドミッションズオフィスのカウンセラーは州内の AP 実施校を年に数回訪問し、実際に高校の教員と生徒と交流する機会を設けている。収集した情報をもとに、実際の入学評価時に、AP の成績だけではなくて、どの学校でどういう成果を挙げたのかをより細かく見ていることが特徴である。T 氏からは、AP が代表する高大接続プログラムの履修経験や成績をツールとして活用し、

郭：高大接続における大学の役割と機能

ポテンシャルや意欲のある生徒をとることが多いとの指摘があった。

表 5. ユタ大学における AP プログラムの単位認定システム

AP 試験科目	単位数	成績	AP 試験科目	単位数	成績
芸術歴史	6	3	フランス語言語・文化	6 8	3-4 5
生物学	6	3	ドイツ語言語・文化	6 8	3-4 5
微積分学 AB	6	3 * ³⁸	イタリア語言語・文化	6 8	3-4 5
微積分学 BC	6	3-4 *	日本語言語・文化	6 8	3-4 5
	8	5 *	ラテン: Vergil	6 8	3-4 5
化学	6	3-4	ラテン語：文学	6	3
	8	5	スペイン語	6 8	3-4 5
情報処理学 AB	6	3	スペイン文学・文化	6	3
情報処理学 A	3	3			
マクロ経済	3	3	音楽原理	6	3
ミクロ経済学	3	3			
英語（文学と作文）	6	4 ** ³⁹	物理学 1	4	4
英語（言語と構成）	3	4 **	物理学 2	4	4
			物理学 B	6	3
			物理学 C（力学）	3	3
			物理学 C（電気と磁気）	3	3
環境科学	3	3	心理学	3	3
ヨーロッパ史	6	3	統計	3	3
比較政治・政策学	3	3	スタジオアート：絵画	6	3
アメリカ政治・政策学	3	3	スタジオアート：2-D デザイン	6 6	3 3
			スタジオアート：3-D デザイン		
人文地理学	3	3	アメリカ史	6	3
中国語言語・文化	6 8	3-4 5	世界史	6	3

UNIVERSITY OF UTAH AP CREDIT AND GENERAL EDUCATION GUIDE ⁴⁰より、筆者抜粋。

2つ目は多様性のある学生を受け入れる手段として活用されている。T氏によると、ユタ大学のアドミッションにおいては、CEやAPを履修した経験がある生徒がそれぞれ6、7割いる。そのうち、CEとAPの両方を履修する生徒も少なくない。だが、CEが地域によって差があり、南部の過疎地域ではCEを教えらる先生が少ないので、APを取る人の方が多い場合があることが指摘された。また、CEが個別の大学と周辺地域の高校が連携・提供する科目であり、必ずしもユタ大学の教育内容と一致するものではないため、単位として認定するにはより詳細な評価を行わなければならない。さらに、ユタ大学において、州内から進学する生徒は75%であるのに対し、州外の生徒は25%である。州外の生徒のうち、10%が留学生で、州外出身の生徒は15%である。上記でも言及したが、ユタ州が独自の高大接続プログラムCEを実施・普及する制度設計があり、大学進学率が全米で高い順位にある背景でもある。州内の生徒がユタ大学に進学するにはCEとAPの両方が有効である一方、州外の生徒がユタ大学に進学する際に、APが多く活用されている。T氏からは、他の州のCEも評価基準として考慮はするが、やはり他の州から入ってくる学生はAPやIBを取っている場合が多いとの指摘があった。

3つ目は入学後の教育効果についてである。APの効果について、APを取得した生徒は、他の生徒に比べて準備ができていし、単位を取った人もコースを取っただけの人でもいるが、どちらでもそうでない生徒と比べて準備ができていという。

6. 考察

本稿はユタ州におけるAPの制度設計の特徴、政策支援の在り方及び大学における活用方法などを検討した。以下で高大接続における大学の役割と機能について考察を記す。

米国の場合は、APの履修や試験への参加により、大学入学後の単位認定や奨学金の評価資料として用いられる場合が多く、時間的、金銭的な節約になると評価されている一方、日本の場合、相当する高大接続制度が存在していない。しかし、将来の入試改革の趣旨や方向性においては、ユタ州におけるAP制度が参考になると考えられる。

第一に、大学入学における能力・適性等の判定である。前述したが、少子化問題がもたらした大学の定員割れ、大学全入時代の到来がもたらした学生の学力や学習意欲の低下等の問題がある。APのような高大接続プログラムへの履修経験や取得した成績が、大学にとって、その入学希望者の能力、ポテンシャル、意欲を判断する有効な情報であると考えられる。

第二に、大学に入学してくる学生の多様化への対応である。地域社会の変化などに対応する多様な人材の育成は、高等教育段階において重要な課題とされている。多様な地域から進学してくる学生に対応するためには、APのような共通基準を持つ高大接続プログラムを受け入れる必要があると考えられる。

第三に、国際的通用性の確保である。グローバル化、国際化が進む中、世界をリードする人材を育成するためには、APのような世界スタンダードを満たしている高大接続の制度設計が必要と考えられる。また留学生の受け皿として、国際的な基準を有する高大接続プログラムの創出が期待される。

一方、州の教育権限が強いユタ州の事例からは、州内の独自の高大接続プログラムを実施・普及させることは比較的推進しやすいが、より多様性・国際的通用性のある高大接続を目指す

ためには、AP に類似する高大接続プログラムを実施することが重要である。特に日本の場合、初等中等教育に対する管理運営の権限は地方自治体にあるのに対し、高等教育機関に対する管理運営の権限は中央政府にある。今後、高大接続における初等中等教育と高等教育の両者の連携を促進するためには、行政機関における適切な規制と助成という点を看過することができない。加えて、組織を安定的に運営するためには、規制と助成をもとに、各セクターの有機的な連携も重視しなければならない。これらの要素は日本における高大接続を実施・普及するために大きな影響を及ぼしうると指摘できよう。

高大接続全体を見ると、本稿はユタ州における AP 以外の高大接続プログラムの実施状況や大学での活用方法に関する検討はまだ不十分である。今後の研究課題として、引き続き考察したい。

※本研究は、科学研究費 JSPS（平成 29 年度）研究活動スタート支援 [課題番号：17H06781] の研究成果の一部である。

註

- ¹ 文部科学省「Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会」
http://www.mext.go.jp/a_menu/society/index.htm（最終確認：2018 年 8 月 31 日）
- ² 杏林大学 HP 「アドバンストプレースメント」
<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/trilingual/advanced/>（最終確認：2018 年 8 月 31 日）
- ³ 杏林大学 HP 「創価大学とアドバンストプレースメントによる大学間単位互換協定を締結」
<http://www.kyorin-u.ac.jp/cn/html/kyorin/00028/201709221/index.html>（最終確認：2018 年 8 月 31 日）
- ⁴ 河合久「第 9 章 ワシントン州における高大接続プログラム」『今後の後期中等教育の在り方に関する研究』国立政策研究所, 2007 年, 389-400 頁。
- ⁵ 腰越滋「第 6 章 能力観の転換と高大接続—ミネソタ州を事例として—」荒井克弘、橋本昭彦（編）『高校と大学の接続』玉川大学出版部, 2005 年, 139-155 頁。
- ⁶ 小川佳万、小野寺香「アメリカにおける高大接続プログラムの単位認定—ハワイ州の高等教育機関を対象として—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』東北大学大学院教育学研究科, 第 57 集, 第 2 号, 2009 年, 321-342 頁。
- ⁷ 郭曉博「米国における高大接続を担当する教員の研修制度の役割と影響—AP(Advanced Placement)プログラムを対象とする事例調査から—」『教育行財政研究』関西教育行政学会, 第 45 号, 2018 年, 13-24 頁。
- ⁸ 郭曉博「米国における高大接続の促進政策—アーカンソー州の Advanced Placement に注目して—」『地域連携教育研究』京都大学地域連携教育研究推進ユニット, 第 2 号, 2018 年, 27-39 頁。
- ⁹ *Advanced Placement Incentive Program Grants*, U.S. Department of Education.
<https://www2.ed.gov/programs/apincent/index.html>（最終確認：2018 年 8 月 31 日）
- ¹⁰ 米国の全州教育協議会は、州関係者全体（知事、議員、政策立案者等）に奉仕する州間組織である。米国全州の教育政策に通用する包括的な教育政策を提案する。各州の教育政策の立案などに大きな影響を与えている。
- ¹¹ Zinth, Jennifer, *Advanced Placement: Model Policy Components. Policy Analysis*, Education Commission of the States, May 2016.
- ¹² Pre-AP 授業は、中学校の教員、高校の教員が実施する AP の準備授業である。
- ¹³ AP 授業の成功とは、AP 試験で 3 以上を獲得したことや、大学に入学した後に単位認定を受けたこと、さらに大学においては、履修した科目に対するさらなる研究の深まりなど、AP の効果と影響を包括的に取られているものを指す。
- ¹⁴ 一人につき約 1.8 科目を受験。
- ¹⁵ AP 試験は 5 段階評価で、3 以上が合格とされる。3 以上を獲得した場合、多くの大学で入学後の単位認定対象とされる。一方、難関大学は入学後の単位認定対象として、4、5 を求める場合が多い。

- ¹⁶ AP Program Participation and Performance Data 2017, College Board.
<https://research.collegeboard.org/programs/ap/data/participation/ap-2017> (最終確認：2018年8月31日)
- ¹⁷ Enhancement for Accelerated Students, Prepared by the Utah State Office of Education.
<https://le.utah.gov/interim/2016/pdf/00000052.pdf> (最終確認：2018年8月31日)
- ¹⁸ LEAs とは Local Education Agency の略である。
- ¹⁹ UCA とは Utah Consolidated Application の略である。
- ²⁰ Utah Administrative Code, Rule R277-707. Enhancement for Accelerated Students Program.
<https://rules.utah.gov/publicat/code/r277/r277-707.htm> (最終確認：2018年8月31日)
- ²¹ Utah State Board of Education, Early College.
<https://www.schools.utah.gov/curr/earlycollege> (最終確認：2018年8月31日)
- ²² Dual Enrollment は高校に在籍しながら、大学と高校の授業を両方履修する高大接続プログラム。
- ²³ ユタ高等教育システムは、Utah System of Higher Education の訳語で、メンバーはユタ大学、ユタ州立大学、ユタ・バレー大学、サザン・ユタ大学、ウィーバー州立大学、スノー大学、ソルトレーク・コミュニティ・カレッジ、ディクシー・ステート州立大学の8校がある。
- ²⁴ 本稿は課題設定に基づき、個別の高大接続プログラムではなく、共通性のある高大接続プログラムに注目することで、CE と ECHS に関する説明を省略しておく。
- ²⁵ NAEP Reading Assessments と NAEP Math Assessments とは、4年生と8年生の生徒に2年ごとに、12年生の生徒に4年ごとに行われる全米の学力共通テストである。
- ²⁶ Salt Lake Chamber, Prosperity 2020.
<https://slchamber.com/prosperity2020/> (最終確認：2018年8月31日)
- ²⁷ Utah State Board of Education, Data and Statistics.
<https://www.schools.utah.gov/data> (最終確認：2018年8月31日)
- ²⁸ 一人につき約1.6科目を受験。
- ²⁹ College Board, SCHOOL REPORT OF AP EXAMS 2016-2017 (BY STATE).
<https://secure-media.collegeboard.org/digitalServices/pdf/research/2017/School-Report-11th-and-12th-2017.pdf>
(最終確認：2018年8月31日)
- ³⁰ College Board, National Report.
<https://research.collegeboard.org/programs/ap/data/participation/ap-2017> (最終確認：2018年8月31日)
- ³¹ College Board, AP Program Participation and Performance Data 2017.
<https://research.collegeboard.org/programs/ap/data/participation/ap-2017> (最終確認：2018年8月31日)
- ³² U.S. News, National University Rankings.
<https://www.usnews.com/best-colleges/rankings/national-universities> (最終確認：2018年8月31日)
- ³³ U.S. News, Best Colleges.
<https://www.usnews.com/best-colleges/university-of-utah-3675> (最終確認：2018年8月31日)
- ³⁴ Honors とは、荣誉コースまたは優等生プログラムを指す。
- ³⁵ 非加重 GPA とは、米国の場合、基本的には0.0、1.0、2.0、3.0、4.0の5段階で測定され、履修した授業の難易度を考慮しないことを指す。例えば、AP授業のAと一般科目授業のAが両方とも4.0に変換されることを意味する。
- ³⁶ Utah University, OFFICE OF ADMISSIONS.
<https://admissions.utah.edu/apply/undergraduate/freshman.php> (最終確認：2018年8月31日)
- ³⁷ College Board, THE 200 COLLEGES AND UNIVERSITIES RECEIVING THE MOST AP SCORES
<https://secure-media.collegeboard.org/digitalServices/pdf/research/2017/2017-Top-200-Colleges.pdf> (最終確認：2018年8月31日)
- ³⁸ *について、微積分学 AB と微積分学 BC の試験において2を取得した場合、ユタ大学一般教育の必修科目 QA (数学) の履修をしないことは可能だが、単位が付与されない。
- ³⁹ **について、英語(文学と作文)と英語(言語と構成)の試験において、4以上を取得した場合、Writing 2010 (ユタ大学一般教育の必修科目) の履修をしないこと；3を取得した場合、Writing 1010 (ユタ大学一般教育の必修科目) の履修をしないことが可能。
- ⁴⁰ Utah University, UNIVERSITY OF UTAH AP CREDIT AND GENERAL EDUCATION GUIDE
<https://admissions.utah.edu/apply/special-credit/advanced-placement-credit-2016%202.pdf> (最終確認：2018年8月31日)

(教育学研究科 助教)

(受稿2018年8月31日、改稿2018年11月21日、受理2018年12月28日)

高大接続における大学の役割と機能

—米国の Advanced Placement プログラムに焦点を当てて—

郭 暁博

本稿はユタ州の事例を取り上げ、AP がユタ州における位置づけや、大学が高大接続において果たしている役割と機能について検討する。具体的に、まず全米の AP に関する政策動向と、ユタ州における AP の制度設計について説明する。次にユタ州の教育基本情報、大学の特徴及び高大接続プログラムの種類について紹介する。さらにユタ州における AP の実施状況を明らかにする。最後にユタ大学での AP の活用方法について検討する。最終的にユタ州における AP の活用事例を通して、高大接続における大学の役割と機能について検証する。結論として、ユタ大学は高大接続においては、①大学入学における能力・適性等の判定、②大学に入学してくる学生の多様化への対応、③国際的通用性の確保の3つの役割を果たしていることを示す。一方、州の教育権限が強いユタ州の事例からは、高大接続をスムーズ促進するためには、行政機関における適切な規制と助成も非常に重要であると指摘する。

University Role and Function in Articulation between Upper Secondary Schools and Universities: Focus on Advanced Placement Program in the USA

GUO Xiaobo

This paper focuses on the position of advanced placement (AP) in the state of Utah in the USA and the roles and functions played by the university in articulation between upper secondary schools and universities. Specifically, we first describe the institutional design of AP in Utah. Next, we introduce the basic educational data of the state of Utah, the characteristics of universities, and types of articulation between upper secondary schools and universities programs. Furthermore, we analyze the situation regarding implementation of AP in Utah. We extract how AP is being put into practice at the University of Utah. Ultimately, we examine the roles and functions of universities in articulation between upper secondary schools and universities. The results of the survey indicated that the University of Utah has three roles in articulation between upper secondary schools and universities: (1) determining ability/aptitude at admission; (2) responding to diversification of students entering university; and (3) securing international validity. In addition, we also found that the educational authority is strong in Utah. To promote articulation between upper secondary schools and universities, proper regulation and subsidization of administrative agencies are very important.

キーワード： 高大接続、大学の役割と機能

Keywords: Articulation between Upper Secondary Schools and Universities, the role and function of universities